平成29年（2017年）７月発行

平成29年
（2017年）
夏 号

大津・南部の農業

発　行
滋賀県大津・南部農業農村振興事務所農産普及課
（大津・南部普及指導センター）
草津市草津三丁目14－75
TEL 077-567-5421～5423
FAX 077-562-8144
メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp
発行責任者　榎木　秀和

この印刷物は古紙パルプを配合しています

底面給水育苗のススメ ～秋冬野菜やイチゴの育苗に最適～

図１　イチゴの育苗

図２　キャベツの育苗

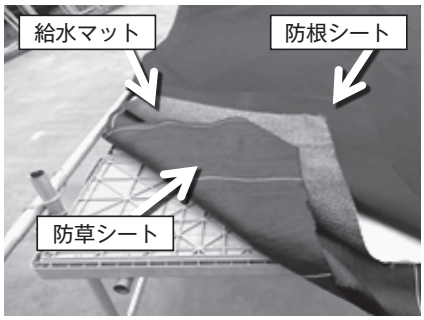


図３　マットの構造

底面給水育苗とは、育苗のときにポットやセルトレイの底穴を通して育苗土に水をしみこませてかん水・育苗する方法です。県内では、ほとんどの少量土壌培地耕のイチゴの育苗（図１）で利用されているほか、近年では、集落営農法人やＪＡなどで大規模に秋冬野菜を育苗（図２）する場合にも利用されています。

育苗で最も重要な作業はかん水ですが、苗の上から手でかん水する方法だと、乾湿の差ができて生育むらが発生したり、イチゴでは炭疽病という致命的な病気の発生が多くなるおそれがあります。また、かん水作業に労働時間が多くかかり、労働費が増えるなどの問題も発生します。

一方、底面給水育苗は、平らな台の上に防草シート、給水マットおよび防根シートを敷き（図３）、その上に並べたポットやセルトレイにタイマーを利用して水を吸わせかん水する仕組みです。この方法では、均一にかん水できることから、苗の生育むらがなくなり、病気の発生やかん水の作業時間を大きく減らすことができます。ただし、資材費がかかるため、その増加分を労働費の削減でまかなうためには、秋冬野菜では１ha程度以上の栽培面積が必要です（表１）。底面給水育苗にご興味のある方は、当課までお問い合わせください。

表１　秋冬野菜での経費試算

	底面吸水	通常（手かん水）
種・土・農薬代	189,355円	189,355円
水道代	5,880円	2,646円
生産資材費	68,374円	47,759円
労働費	85,167円	168,583円
合計	348,776円	408,343円

※条件
キャベツ栽培面積　1ha（育苗枚数350枚）
生産資材費は耐用年数を考慮
時間当たりの労働費は1,000円
作業時間は設営から育苗終了まで60日間

おしらせ

平成29年７月より、大津・南部農産普及課のFacebookページ「Face to アグリ大津・南部」がオープンします。管内の農業情報をいち早くお伝えします。ぜひ「いいね！」してくださいね！

『大津・南部農産普及課　Facebook』で検索するか、左のQRコードからご覧ください！

湖南地域野菜振興協議会が発足しました！

平成29年６月１日、大津・南部地域の野菜の生産振興や生産者の所得安定を目標とした『湖南地域野菜振興協議会』が設立されました。

1　協議会の体制

この協議会は、農産物流通を担うＪＡ（レーク大津、草津市、栗東市、おうみ冨士）を中心に、各市、県、地元市場などの関係機関が連携した組織で、地域農業センター（大津、湖南）が事務局となり、広域的な活動の調整を行っています。

効果的な活動を行うため、それぞれの組織が役割を分担して取り組んでいます。

各ＪＡ ： 管内生産者への栽培技術指導、出荷計画の作成、出荷先との調整　など
全農 ： 出荷箱等、資材に関する提案、市場情報の提供　など
各市 ： 野菜生産振興に関する各種事業の推進と実施　など
県 ： 専門的な栽培技術指導、新規作型・品目への取組支援　など
㈱滋賀びわ湖青果（アドバイザー）： 流通・販売面での助言　など
地域農業センター（事務局）： 関係機関の連絡調整、協議会事業の推進　など

2　協議会の取組

① ４ＪＡで連携して取り組んできた「近江のキャベツ」の生産安定とさらなる面積の拡大、積極的な商談を通じた販路の拡大を目指します。
② 大津・南部地域に適した新たな品目の検討と生産・販売体制を構築します。

「近江のキャベツ」現地研修会

3　協議会発足による生産者のメリット

【生産面】

協議会からの情報提供および技術指導により、一定の栽培基準に基づき生産することで、品質の良い野菜の出荷ができます。

【販売面】

広域化により販売ロットが大きくなり、長期的に出荷することでＪＡの販売交渉力が向上し、市場価格の乱高下に左右されにくい販売先が確保され、収入の安定化が期待できます。

「近江のキャベツ」の収穫

協議会について詳細をお知りになりたい方は、各地域のＪＡにある営農関係主務課までお問い合わせください。

農業生産工程管理（ＧＡＰ）に取り組んでみよう！

1　ＧＡＰ（Good Agricultural Practice）とは？

産地や農家が安定した経営を続けるために、思いもよらぬ出荷停止や農作業事故等を起こさないための対策をルールとして定め、生産工程の管理や改善を行う取組のことです。

具体的には、作業の実施、記録、点検、評価を繰り返し、リスクの低減をすすめることが目的です。

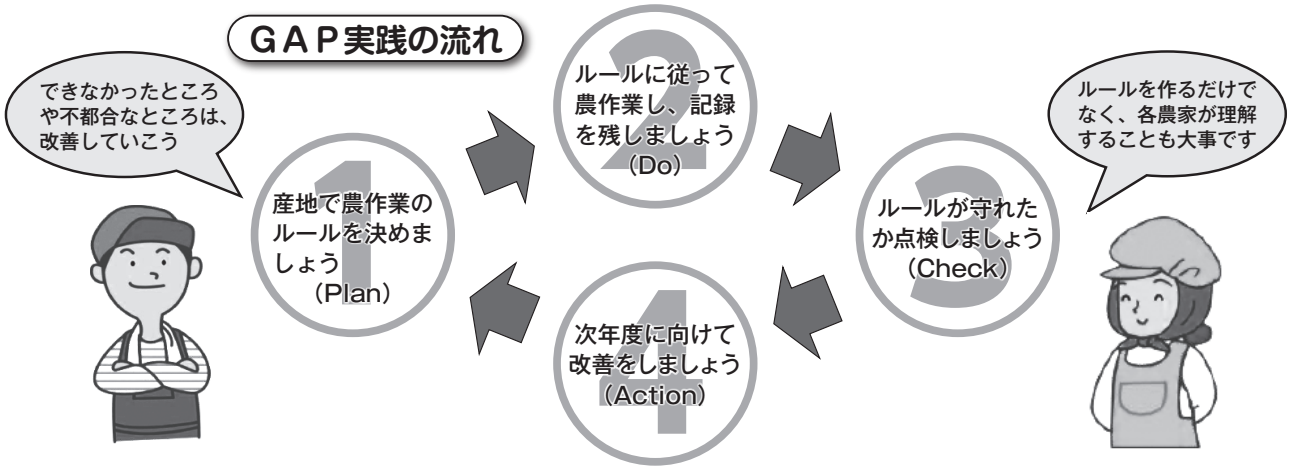
2　どうしてＧＡＰを導入する必要があるの？

東京オリンピック・パラリンピックにおける食材供給や農産物の輸出等に対応するために、国際的基準である「グローバルＧＡＰ」や日本で作られた「ＪＧＡＰ」などの取組が必須とされるなどの状況になっています。

大津・南部管内では、ＧＡＰのひとつとして、ＪＡ等で生産履歴を含む簡易な取組についてはすでに実施されていますが、「グローバルＧＡＰ」や「ＪＧＡＰ」を導入している事例はありません。しかし、農産物の輸出に対する需要の拡大をうけ、今後はさらにＧＡＰ認証取得への関心が高まるとともに、国内流通においてもＧＡＰの取組が重要になってくると考えられます。

ＧＡＰのメリットは、前述のほかに、取引先からの要求への対応、農場の信用度のアップ、作業従事者の責任感や自主性の向上など経営改善に対する効果もあります。

みなさんもＧＡＰに取り組んでみませんか？ご興味がある方は、当課までお問い合わせください！



「世界農業遺産プロジェクト」をご存じですか？

滋賀県　世界農業遺産　検索

滋賀県では、琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業について、県内全市町や関係団体等の皆様とともに、平成31年度の「世界農業遺産」の認定を目指しています。認定申請に向け、昨年９月には、「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会」設立準備会を立ち上げました。生産者の皆様をはじめ、消費者や企業、次世代を担う若い方々に参画いただきながら、滋賀の農山漁村の魅力発信などに取り組んでおります。ぜひ一緒に取組を進めていきませんか？詳しくは県農政課HPをご覧ください。

新たに認定された指導農業士のご紹介

指導農業士制度は、青年農業者の育成、農業振興のリーダーとして活躍していただく農業者を市長の推薦により、県知事が認定する制度です。今年度は、管内で２名が新たに認定されました。

守山市　大井　慎太郎さん

大井さんは、守山市でイングリッシュローズなど特徴のある品種を生産・出荷され、高い市場評価を得ています。

複合環境制御装置を導入し、高品質化と省力化の両立をめざした栽培に取り組まれているほか、新たにガーデン用の品種を切り花として導入するなど、生産・販売ともに積極的な展開をされています。

おうみ冨士花卉園芸振興協会の会長や滋賀県花き園芸協会ばら部会の役員として、花きの生産振興や消費拡大に関する活動にも参画しておられます。

研修生を積極的に受け入れ、栽培技術のみならず経営者としての心構えなども伝え、担い手の育成指導に尽力されています。

野洲市　北中　良幸さん

北中さんは、野洲市の中心的な施設園芸の担い手として、平成27年に「株式会社きたなかふぁーむ」を設立されました。現在、28,000㎡の施設でキュウリの専作経営により、流通・販売を含め、数字で結果を表せる若き企業的経営者として活躍されています。

担い手不在となったハウスを積極的に受け入れるなど、キュウリ産地の育成に尽力されています。

市が運営する農産物のブランド力の強化を目指した「まるかじり協議会」の委員も務められています。

若い農業者が経営的な感性を磨き、主体的に農業に取り組むことが滋賀県農業の発展に寄与すると考え、研修生の受け入れにも積極的に取り組まれています。

滋賀県立農業大学校で農業を学びませんか？

養成科願書受付期間

▶推　薦　入　試：平成29年10月２日(月)～10月17日(火)

▶一般入試(一次)：平成29年11月22日(水)～12月５日(火)

詳しくは農業大学校（0748-46-2551）または当課までお問い合わせください。